

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	解剖生理学				担当教員名		庄田 元		
実務経験等		あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師 治療院勤務・治療院開業 2002年4月より現在に至る 鍼灸マッサージ教員 2004年4月より現在に至る									
年次	2学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		講義									
到達目標		神経系、感覚器系の形態と構造及び機能について理解させ、これを施術に応用する能力と態度の礎を養う。 ・末梢神経系の構造と機能について習得する。 ・内臓の自律神経性調節について習得する。 ・視覚器、平衡感覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚の構造と機能について習得する。									
使用教材		「解剖生理」医歯薬出版「からだが見える」メディックメディア						評価方法		筆記	
授業内容											
1	神経系とは					9	第3章 D 末梢神経系 3. 自律神経系				
2	第3章 D 末梢神経系 2. 脊髄神経					10	第3章 D 末梢神経系 3. 自律神経系				
3	第3章 D 末梢神経系 2. 脊髄神経					11	第3章 D 末梢神経系 3. 自律神経系				
4	第3章 D 末梢神経系 2. 脊髄神経					12	第3章 D 末梢神経系 3. 自律神経系まとめ				
5	第3章 D 末梢神経系 2. 脊髄神経					13	第3章 D 末梢神経系 1. 脳神経				
6	第3章 D 末梢神経系 2. 脊髄神経					14	第3章 D 末梢神経系 1. 脳神経				
7	第3章 D 末梢神経系 2. 脊髄神経まとめ					15	第3章 D 末梢神経系 1. 脳神経				
8	第3章 D 末梢神経系 3. 自律神経系					16	第3章 D 末梢神経系 1. 脳神経まとめ				
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	機能解剖生理学			担当教員名		北原 奈那			
実務経験等		・総合病院の鍼灸部門にて研修生・レディースクリニックにて勤務 ・鍼灸院リンパ浮腫治療室を開業・都内の腫瘍内科にて非常勤鍼灸師・鍼灸専門学校の専任教員として勤務・非常勤講師 ・大学病院のリハビリテーション部の研修を活かしてリハビリに必要な知識を深める授業を行う。									
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		講義									
到達目標		人体の関節や筋の構造、機能学、運動学を学び、日常動作の協調運動がどのように行われているかを理解させ、鍼灸施術や機能回復に応用できる知識を修得させる。									
使用教材		「生理学　リハビリテーション医学（東洋療法学校協会教科書）」						評価方法		筆記	
授業内容											
1	生理学　運動①					9	手関節と手指の構造と機能				
2	生理学　運動②					10	骨盤と股関節の構造と機能				
3	テコと重心・姿勢					11	膝関節の構造と機能				
4	椎骨の構造と機能					12	膝関節の構造と機能				
5	上肢帯の構造と機能					13	足関節の構造と機能				
6	肩関節の構造と機能					14	正常歩行				
7	肩関節の構造と機能					15	試験対策				
8	肘関節と前腕の構造と機能										
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	病理学概論-1				担当教員名		小園 知		
実務経験等		大学教員として38年勤務。 病理学教員として大学に勤務していた経験から、病変の基礎的知識を習得する内容の授業を行う。									
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		プリント配布、講義はパワーポイントを用いて行う。									
到達目標		身体の一般的な病的変化の定義、分類についての基本的知識を学び、その病的変化の様相、機序を理解することで、臨床医学を科学的に理解できる能力を身に付ける。医学用語の概念を理解しそれを適切に使えることを目標とする。病理学基礎、病因、循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、免疫異常とアレルギー、腫瘍の総論について学ぶ。									
使用教材		「病理学概論第二版、東洋療法学校協会」医歯薬出版 3100円＋税						評価方法		筆記	
授業内容											
1	退行性病変：細胞損傷と物質沈着					9	免疫と免疫異常				
2	蛋白質代謝障害と疾患					10	腫瘍：定義と分類				
3	脂質代謝障害と疾患					11	良性と悪性腫瘍の相違				
4	糖質代謝障害と疾患					12	腫瘍の発生病理				
5	色素代謝障害、結石、萎縮					13	病因論				
6	細胞死と死、加齢と老化					14	先天異常				
7	炎症：原因と経過					15	総括				
8	炎症の各型：肉芽腫性炎										
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	臨床医学各論Ⅱ（前期）				担当教員名	吉田 和市			
実務経験等		各論Ⅱでは、臨床全身麻酔や鎮静法、救急蘇生の実践、循環薬理学の基礎研究の経験を活かし、基本的な患者さんの診察法を内科学に焦点を当て、講義する。具体的な目標は、呼吸、循環、代謝、麻酔を中心に生体管理学の基礎を理解させることである。また、また、日本蘇生学会蘇生法指導医としての実績を背景に、施術中の合併症や医療事故とその救急処置についても理解を深めるようにしたい。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		板書・パワーポイントによる学生参加型授業 各講義の後半15分で小テストその解説を行う									
到達目標		第4～7・9・10・12章の呼吸器疾患・循環器疾患・血液疾患・内分泌疾患・代謝疾患・アレルギー疾患及び膠原病・腎尿路疾患及び麻酔についての概念と症状を理解し疾患の鑑別に応用できるよう学習する。									
使用教材		「臨床医学各論」医歯薬出版						評価方法		筆記	
授業内容											
1	呼吸器疾患Ⅰ					9	まとめ				
2	呼吸器疾患Ⅱ					10	内分泌疾患・下垂体疾患				
3	呼吸器疾患Ⅲ					11	甲状腺疾患				
4	呼吸器疾患Ⅳ					12	副腎疾患				
5	まとめ					13	まとめ				
6	腎尿路疾患Ⅰ					14	糖代謝異常				
7	腎尿路疾患Ⅱ					15	前期まとめ				
8	腎尿路疾患Ⅲ										
特記事項		各項目の臨床事項のみならず、関連する基礎的重要事項にも随時触れ、国家試験への対応能力を身につける。									

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	臨床医学各論Ⅱ（後期）①				担当教員名	吉田 和市			
実務経験等		各論Ⅱでは、臨床全身麻酔や鎮静法、救急蘇生の実践、循環薬理学の基礎研究の経験を活かし、基本的な患者さんの診察法を内科学に焦点を当て、講義する。具体的な目標は、呼吸、循環、代謝、麻酔を中心に生体管理学の基礎を理解させることである。また、また、日本蘇生学会蘇生法指導医としての実績を背景に、施術中の合併症や医療事故とその救急処置についても理解を深めるようにしたい。									
年次	2学年	開講期		種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		板書・パワーポイントによる学生参加型授業 各講義の後半15分で小テストその解説を行う									
到達目標		第４～７・９・１０・１２章の呼吸器疾患・循環器疾患・血液疾患・内分泌疾患・代謝疾患・アレルギー疾患及び膠原病・腎尿路疾患及び麻酔についての概念と症状を理解し疾患の鑑別に応用できるよう学習する。									
使用教材		「臨床医学各論」医歯薬出版						評価方法		筆記	
授業内容											
1	脂質異常症・痛風 他					9	まとめ				
2	心疾患Ⅰ					10	リウマチ性疾患				
3	心疾患Ⅱ					11	膠原病・アレルギー疾患				
4	冠動脈疾患					12	まとめ				
5	血管の疾患・血圧異常					13	全身麻酔法・局所麻酔法				
6	赤血球疾患					14	神経ブロック				
7	白血球疾患					15	後期まとめ				
8	出血性素因										
特記事項		臨床事項のみならずそれに関する重要基礎事項にも 随時ふれ、国家試験に備える。									

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	臨床医学各論Ⅱ（後期）②				担当教員名		野頭 智一		
実務経験等		あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師 訪問施術（2007年4月～） 鍼灸マッサージ非常勤講師（2009年4月～）									
年次	2学年	開講期		種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		講義									
到達目標		第1章感染症、第2章消化器疾患、第3章肝胆膵疾患についての概念と症状を理解し、疾患の鑑別に応用できるよう学習する。									
使用教材		「臨床医学各論」医歯薬出版						評価方法		筆記	
授業内容											
1	細菌感染症					9	腫瘍性疾患1				
2	ウイルス感染症					10	腫瘍性疾患2、腹膜疾患				
3	性感染症					11	総論、肝臓疾患1				
4	細菌性食中毒					12	肝臓疾患2				
5	総論、口腔疾患					13	胆嚢疾患				
6	食道疾患、胃・十二指腸疾患					14	膵臓疾患1				
7	腸疾患1					15	膵臓疾患2				
8	腸疾患2										
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	東洋医学概論Ⅱ				担当教員名	松田 信晴			
実務経験等		鍼灸師として訪問治療・本学附属臨床施設での鍼灸治療の経験をもとに、当該科目の教育を行う。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	60時間	単位数	4単位	区分	必修
授業概要		講義									
到達目標		東洋医学概論Ⅰで習得した知識をさらに深め、臨床に応用できる知識を学び、弁証を立てながら臨床実技に応用できるようになる。									
使用教材		「新版 東洋医学概論」医道の日本社						評価方法		筆記	
授業内容											
1	一年次復習テスト 解説 気血津液復習					16	四診 望診①				
2	臓腑の生理病理、病証 復習①					17	望診②				
3	臓腑の生理病理、病証 復習②					18	聞診				
4	八綱弁証、気血津液病証、気血同病の演習					19	問診①				
5	臓腑弁証①肝心脾					20	問診②				
6	臓腑弁証②肺腎 総括					21	問診③				
7	臓腑兼証①					22	切診①				
8	臓腑兼証②					23	切診②				
9	臓腑兼証③					24	弁証法の種類				
10	病因（外感病因）					25	治療原則、治法、補瀉法				
11	病因（内傷、その他）					26	刺法、弁証論治演習①				
12	病因					27	弁証論治演習②				
13	経絡病証					28	中医処方学①				
14	弁証演習問題①					29	中医処方学②				
15	弁証演習問題② 前期まとめ					30	総括				
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	はりきゅう理論Ⅱ			担当教員名		庄田 元			
実務経験等		あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師 治療院勤務・治療院開業 2002年4月より現在に至る 鍼灸マッサージ教員 2004年4月より現在に至る									
年次	2学年	開講期		種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		講義									
到達目標		鍼灸療法の治効理論を現代医学の視点から学び、それに基づいて治療法を組みたてられる基礎力を習得させる。また、「はりきゅう理論」は国家試験においてもはり理論10問、きゅう理論10問と出題数が比較的多く、出題傾向も対策すれば高確率で点数を取れる科目である。その4択問題を解けるような知識を身に付ける。									
使用教材		はりきゅう理論 第3版						評価方法		筆記試験	
授業内容											
1	神経系の概要					9	第8章 3 1) 体性感覚				
2	第8章 2 1) 運動系の調節					10	第8章 3 1) 体性感覚				
3	第8章 2 1) 運動系の調節					11	第8章 3 1) 体性感覚				
4	第8章 2 1) 運動系の調節まとめ					12	第8章 3 1) 体性感覚				
5	第8章 2 2) 内臓系の調節					13	第8章 3 1) 体性感覚				
6	第8章 2 2) 内臓系の調節					14	第8章 3 1) 体性感覚まとめ				
7	第8章 2 2) 内臓系の調節まとめ					15	総まとめ				
8	第8章 3 1) 体性感覚										
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	東洋医学臨床論Ⅰ				担当教員名		嶋 正明		
実務経験等		鍼灸マッサージ治療院を先代より引き継ぎ32年勤務する。また、国立障害者リハビリテーションにて非常勤職員として27年勤務。(はり師きゅう師あん摩マッサージ指圧師) 長年の臨床経験より得られた臨床技術を東洋医学的見地よりわかりやすく伝える授業を行う。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	60時間	単位数	4単位	区分	必修
授業概要		講義									
到達目標		東洋医学臨床論の教科書をもとに、各疾患の症状、病態生理を理解した上で、現代医学的な考え方での治療方針が立てられるようにする。									
使用教材		「東洋学医学臨床論（はりきゅう編）」南江堂 東洋療法学校協会編 教科書検討小委員会著						評価方法		筆記	
授業内容											
1	鍼灸臨床					16	咳嗽と喀痰、呼吸困難、鼻閉・鼻汁				
2	治療穴とその応用					17	脱毛、耳鳴・難聴、排尿障害、ED				
3	手技と手法					18	疲労と倦怠感、発熱				
4	疼痛					19	冷え、のぼせ				
5	頭痛、顔面痛					20	浮腫、掻痒感、肌荒れ、発疹				
6	関節痛、頸肩腕痛					21	顔面麻痺、歩行異常				
7	上肢痛、肩関節痛					22	口渇、出血傾向				
8	腰下肢痛、腰痛					23	女性特有の症候、月経異常				
9	下肢痛、膝痛					24	性器出血、帯下				
10	胸痛、腹痛					25	不妊症、つわり				
11	眼精疲労、気分障害、めまい					26	骨盤位、乳汁分泌異常				
12	動悸・息切れ、血圧異常、睡眠障害					27	小児特有の症候、疳の虫				
13	食欲不振、肥満、やせ					28	夜尿症、小児喘息				
14	悪心嘔吐、便秘、下痢、歯痛					29	老年特有の症候、認知症				
15	前期まとめ					30	後期まとめ				
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	東洋医学臨床論Ⅱ				担当教員名	嶋 正明			
実務経験等		鍼灸マッサージ治療院を先代より引き継ぎ32年勤務する。また、国立障害者リハビリテーションにて非常勤職員として27年勤務。(はり師きゅう師あん摩マッサージ指圧師) 長年の臨床経験より得られた臨床技術を東洋医学的見地よりわかりやすく伝える授業を行う。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	60時間	単位数	4単位	区分	必修
授業概要		講義									
到達目標		東洋医学臨床論の教科書をもとに、各疾患の症状、病態生理を理解した上で、東洋医学的な考え方での治療方針が立てられるようにする。									
使用教材		「東洋学医学臨床論（はりきゅう編）」南江堂 東洋療法学校協会編 教科書検討小委員会著						評価方法		筆記	
授業内容											
1	鍼灸臨床					16	肺系統（咳嗽と喀痰、呼吸困難、鼻閉・鼻汁）				
2	治療穴とその応用					17	腎系統（脱毛、耳鳴・難聴、排尿障害、ED）				
3	手技と手法					18	疲労と倦怠感、発熱				
4	疼痛					19	冷え、のぼせ				
5	頭痛、顔面痛					20	浮腫、掻痒感、肌荒れ、発疹				
6	痺証、関節痛、頸肩腕痛					21	顔面麻痺、歩行異常				
7	上肢痛、肩関節痛					22	口渇、出血傾向				
8	腰下肢痛、腰痛					23	女性特有の症候、月経異常				
9	下肢痛、膝痛					24	性器出血、帯下				
10	胸痛、腹痛					25	不妊症、つわり				
11	肝系統（眼精疲労、気分障害、めまい）					26	骨盤位、乳汁分泌異常				
12	心系統（動悸・息切れ、血圧異常、睡眠障害）					27	小児特有の症候、疳の虫				
13	脾系統（食欲不振、肥満、やせ）					28	夜尿症、小児喘息				
14	脾系統（悪心嘔吐、便秘、下痢、歯痛）					29	老年特有の症候、認知症				
15	前期まとめ					30	後期まとめ				
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	診察学				担当教員名		川口 禎子		
実務経験等		・ 鍼灸治療院で鍼灸マッサージ師として26年勤務中(はり師きゅう師あん摩マッサージ指圧師) ・ 15年前より個人での出張治療も行っている。 鍼灸師として長年治療院で勤務をしている経験から、臨床に必要な疾患の知識と判断能力について授業を行う。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	60時間	単位数	4単位	区分	必修
授業概要		講義									
到達目標		臨床医学総論の教科書における診察学の理解を含め、又検査法の意義と種類・理学的検査について学び、臨床に応用するための知識を養う。									
使用教材		「臨床医学総論」医歯薬出版 4500円＋税						評価方法		筆記	
授業内容											
1	第一章診察の概要～ 第二章診察の方法、1 医療面接					16	第六章神経系の診察 1 感覚検査法				
2	2 視診～7 神経系の診察					17	2 反射検査				
3	第三章生命徴候 1 体温、2 脈拍					18	3 脳神経系の検査				
4	3 血圧、4 呼吸					19	4 髄膜、5 その他				
5	第四章全身の診察 1顔貌、2 精神、3 言語					20	第七章運動機能検査 1 運動麻痺、2 筋肉異常				
6	4 身体、5 体型、栄養					21	3 不随意、4 協調				
7	7 姿勢、8 歩行、9 皮膚					22	5 起立				
8	1 0 爪、1 1 リンパ節、1 2 その他					23	第八章その他の診断				
9	第五章局所の診察 1 頭、2 顔、3 眼					24	第九章臨床検査法 1 一般検査、2 尿、便				
10	4 鼻、5 耳、6 口腔					25	血液検査				
11	7 頸部、8 胸部					26	2 血液生化学検査				
12	9 乳房、1 0 肺、胸膜					27	3 画像診断				
13	1 1 心臓、1 2 腹部					28	第十一章治療学 1 概要、2 薬物、3 食事				
14	1 3 背部、1 4 四肢					29	4 理学療法、5 その他				
15	前期まとめ					30	後期まとめ				
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	医療面接				担当教員名		棚田 徹也		
実務経験等		"・介護老人保健施設にて、リハビリ主任として6年間勤務。（上記老健施設併設診療所リハビリ課主任を兼任）リハビリだけでなく、介護計画、利用者及び家族からの相談にも対応。・はり、きゅう、マッサージ治療院の開設者院長として6年間経営及び施術業務（臨床）に従事。"・介護老人保健施設・診療所勤務及びあはき施術所経営の経験から、保険・医療・福祉の諸制度とその現状について、あはきの視点も加味して、総合的な視点から授業を行う。・異なった環境で、多様なタイプの環境で臨床を行った経験から、様々な局面に即応できる灸術の基礎を学ぶことのできる授業を行う。"									
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	16時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		講義、傾聴・面接実習									
到達目標		医療コミュニケーションにおける医療面接の重要性を理解する。また、患者との良好な関係を構築するためのコミュニケーションに必要な傾聴の意義と実際を理解し、実践の基礎を身に付ける。									
使用教材								評価方法		筆記試験、平常点（授業中の実習への参加状況）	
授業内容											
1	臨床コミュニケーションとは 医療面接と問診の違い										
2	傾聴の基本 クライアントを誘導する										
3	傾聴の技法と実習										
4	医療面接における問診 質問法										
5	医療面接と身体診察の基本 カルテ										
6	患者－医療者関係と意思決定										
7	患者の視点に立ったコミュニケーション 解釈モデル										
8	医療面接模擬実習とまとめ										
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	社会あはき学Ⅱ				担当教員名		松田 信晴		
実務経験等		鍼灸師として訪問治療・本学附属臨床施設での鍼灸治療の経験をもとに、当該科目の教育を行う。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	20時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		グループ学習・探究活動									
到達目標		グループまたは個人ではきの臨床や社会的な要請についての問題点をテーマとし、調査や研究を行い、発表する。この活動を通して社会のニーズに適応できるあはき師となるために必要な自己学習能力、解決能力を身に付ける。									
使用教材								評価方法		発表とレポート	
授業内容											
1	ガイダンス					9	グループ学習・探究活動				
2	グループ学習・探究活動のテーマ選定・活動計画立案					10	学習発表				
3	活動計画発表・討論										
4	グループ学習・探究活動										
5	グループ学習・探究活動										
6	グループ学習・探究活動										
7	グループ学習・探究活動										
8	グループ学習・探究活動										
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	臨床はりきゅう実技Ⅰ				担当教員名		星 いつ子		
実務経験等		あん摩マッサージ指圧師・鍼灸師として整形外科クリニック・内科クリニック・漢方薬局・往診治療の経験をもとに当該科目の教育を行う。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	実技	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		グループ学習、実技									
到達目標		東洋医学臨床論Ⅰで学んだことをもとに、実際の臨床でその実技が行え、治療ができるようになる。									
使用教材		「東洋医学臨床論」医道の日本社 ②3900＋税						評価方法		実技	
授業内容											
1	下肢反射、FFD計測、腰部治療					9	上腕骨外側上顆炎に対する鍼灸治療				
2	腰痛治療（側臥位）、椎間関節刺鍼					10	胸郭出口症候群検査法、前斜角筋刺鍼				
3	腰方形筋刺鍼、坐骨神経痛の通電治療					11	肩甲上腕リズム 結節間溝、棘上筋刺鍼				
4	膝の視診・触診					12	肩関節インナーマッスルトレーニング、ド・ケルバン病、ガングリオン				
5	膝周囲の骨にスケッチ、脛骨粗面に刺鍼、タナ触診					13	歯科領域の鍼麻酔				
6	各種テスト法、腸脛靱帯刺鍼、施灸					14	顔面に対する治療				
7	頸椎症の通電治療、頸部痛の治療					15	まとめ				
8	肩こりの治療										
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	臨床はりきゅう実技Ⅱ				担当教員名		嶋 正明		
実務経験等		鍼灸マッサージ治療院を先代より引き継ぎ32年勤務する。また、国立障害者リハビリテーションにて非常勤職員として27年勤務。(はり師きゅう師あん摩マッサージ指圧師) 長年の臨床経験より得られた臨床技術を東洋医学的見地よりわかりやすく伝える授業を行う。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	実技	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		実技									
到達目標		東洋医学臨床論Ⅱで学んだことをもとに、実際の臨床でその実技が行え、治療ができるようになる。									
使用教材								評価方法		実技	
授業内容											
1	基本手技と手法					16	補寫法（補法の実際）				
2	脈診と舌診					17	補寫法（瀉法の実際）				
3	腹診と背候診					18	標治法（肩こり）				
4	背俞穴の切経と治療					19	標治法（頸肩腕痛）				
5	募穴の切経と治療					20	標治法（肩関節痛）				
6	原穴の切経と治療					21	標治法（腰下肢痛）				
7	四診合参法					22	標治法（膝関節痛）				
8	弁証論治入門					23	標本同治（症例検討1）				
9	弁証論治演習1（俞募原配穴）					24	標本同治（症例検討2）				
10	弁証論治演習2（俞募原配穴）					25	標本同治（症例検討3）				
11	弁証論治演習3（俞募原配穴）					26	標本同治（症例検討4）				
12	弁証論治演習4（俞募原配穴）					27	弁証論治応用演習1（臓腑複合弁証）				
13	弁証論治演習5（俞募原配穴）					28	弁証論治応用演習2（臓腑複合弁証）				
14	弁証論治演習6（俞募原配穴）					29	弁証論治応用演習3（臓腑複合弁証）				
15	弁証論治演習7（俞募原配穴）					30	弁証論治応用演習4（臓腑複合弁証）				
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	経絡経穴実技				担当教員名		森下 元		
実務経験等		1980年に鍼灸院を開業して40年になります。資格：はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、介護支援専門員 鍼灸臨床の実際と神奈川県鍼灸師会、かながわ古典研究会会長として鍼灸医学古典の紹介も行っています。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	実技	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		実技 銀鍼寸3-1番使用									
到達目標		1 年次で学んだ経穴について、正確な取穴と適切な刺鍼ができるようになる。穴位に走行する筋肉・神経・血管について理解し、取穴及び臨床に応用できるようになる。 また、経絡治療の基礎として、脈診・腹診から取穴の補瀉による本治法を行うやり方を学ぶ。									
使用教材		「新版 経絡経穴概論」医道の日本						評価方法		実技	
授業内容											
1	太陰肺経					9	太陽膀胱経				
2	厥陰心包経					10	少陰腎経				
3	少陰心経					11	太陰脾経				
4	太陽小腸経					12	厥陰肝経				
5	少陽三焦経					13	督脈				
6	陽明大腸経					14	任脈				
7	陽明胃経					15	まとめ				
8	少陽胆経										
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	部位別あん摩実技				担当教員名		君嶋 眞理子		
実務経験等		あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として40年以上の臨床経験がある。 豊富な知識と経験、技術を活かした授業を行う。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	実技	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		実技・実習形式									
到達目標		側臥位による身体各部のあん摩施術を習得させ、施術者としての心構えについて指導する。									
使用教材		「あんまマッサージ指圧実技〈基礎編〉」 医道の日本社						評価方法		実技	
授業内容											
1	1年生の復習					16	全身施術				
2	1年生の復習					17	全身施術				
3	側臥位 腰臀部・下肢					18	全身施術				
4	側臥位 腰臀部・下肢					19	全身施術				
5	側臥位 腰臀部・下肢					20	全身施術				
6	頭頸部					21	全身施術				
7	頭頸部					22	全身施術				
8	全身あん摩40分					23	全身施術				
9	全身あん摩40分					24	全身施術				
10	全身あん摩40分					25	全身施術				
11	全身あん摩40分					26	全身施術				
12	仕上げ					27	全身施術				
13	全身あん摩80分					28	全身施術				
14	全身あん摩80分					29	全身施術				
15	期末テスト					30	期末テスト				
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	部位別マッサージ実技				担当教員名		木村 桃子		
実務経験等		鍼灸治療院で4年勤務。卒後9年研修生 臨床経験をふまえて、基礎を十分に身につける授業を行う。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	実技	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		ベビーオイル、バスタオル用意 実技室使用									
到達目標		1年次に習得したマッサージの基礎的技術を踏まえて、全身施術を学び、患者や部位の違いによる施術の違いを習得し実践できるようになる。									
使用教材		「あん摩マッサージ指圧実技 基礎編」医道の日本社						評価方法		実技	
授業内容											
1	前腕への施術（仰臥位）					16	手関節				
2	上肢への施術（仰臥位・伏臥位）					17	肘関節				
3	下腿への施術（仰臥位）					18	肩関節				
4	下腿への施術（伏臥位）					19	上肢全体への施術（手部含む）				
5	大腿への施術（仰臥位）					20	足関節前面				
6	大腿への施術（伏臥位）、臀部					21	足関節後面				
7	背部への施術					22	足関節通し				
8	背部への施術					23	フットマッサージ①				
9	背部への施術					24	フットマッサージ②				
10	背部への施術					25	ストレッチ①				
11	吸角（置缶、走缶）					26	ストレッチ②				
12	吸角（閃缶、強さの調節）					27	腹部				
13	試験対策練習					28	試験対策練習				
14	試験対策練習					29	試験対策練習				
15	総括					30	総括				
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	部位別指圧実技				担当教員名	庄田 元			
実務経験等		あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師 治療院勤務・治療院開業 2002年4月～現在に至る 鍼灸マッサージ教員 2004年4月より現在に至る									
年次	2学年	開講期	前期	種別	実技	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		1年次で学んだ基本法を応用し、各部位に適した施術法とその組立てを学ぶ。 また、徒手検査法で学んだ検査や触診を行い、患者の病態をイメージする。									
到達目標		各部位に適した施術法とその組立てができるようになる。 検査から患者の病態を把握できるようになる。 患者の訴えにあわせた施術ができるようになる。									
使用教材								評価方法		実技試験	
授業内容											
1	全身操作の手順 側臥位 片側7分					16	検査から問題のある筋を探る 頸・肩甲骨				
2	全身操作の手順 側臥位 片側7分					17	検査から問題のある筋を探る 頸・肩甲骨				
3	全身操作の手順 伏臥位・上半分 片側5分					18	検査から問題のある筋を探る 肩				
4	全身操作の手順 伏臥位・上半分 片側5分					19	検査から問題のある筋を探る 肩				
5	全身操作の手順 伏臥位・下半分 片側5分					20	検査から問題のある筋を探る 肘・手				
6	全身操作の手順 伏臥位・下半分 片側7分					21	検査から問題のある筋を探る 肘・手				
7	全身操作の手順 仰臥位・下肢 片側7分					22	検査から問題のある筋を探る 腰・股関節				
8	全身操作の手順 仰臥位・下肢 片側7分					23	検査から問題のある筋を探る 腰・股関節				
9	全身操作の手順 仰臥位・上肢 片側7分					24	検査から問題のある筋を探る 膝・足				
10	全身操作の手順 仰臥位・上肢 片側7分					25	検査から問題のある筋を探る 膝・足				
11	全身操作の手順 仰臥位・頭部顔面胸部腹部 5分					26	検査から病態を把握 部位別施術30分				
12	全身操作70分－A					27	検査から病態を把握 部位別施術30分				
13	全身操作70分－B					28	検査から問題のある筋を探る 口頭試問と指圧法				
14	各部位の練習・試験対策 下腿外側の強圧					29	検査から問題のある筋を探る 口頭試問と指圧法				
15	各部位の練習・試験対策 下腿外側の強圧					30	検査から問題のある筋を探る 口頭試問と指圧法 実技試験				
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	徒手検査法				担当教員名		星 いつ子		
実務経験等		あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師 治療院勤務・治療院開業 2002年4月～現在に至る 鍼灸マッサージ教員 2004年4月～現在に至る									
年次	2学年	開講期	前期	種別	実技	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要		実技・実習形式 関節可動域検査、徒手筋力検査、徒手による整形外科的検査法の意義を理解し、正確に行うことができる能力を育てる。									
到達目標		・関節可動域検査の意義を理解し、正確な方法を用いて、全身の関節の検査を行うことができる。・徒手筋力検査の意義を理解し、正確な方法を用いて、全身の主要な筋肉の検査を行うことができる。・徒手による整形外科的検査法の意義を理解し、正確な方法を用いて、検査を行うことができる。・様々な徒手検査法を用いて、疾患の鑑別能力および病態を把握する能力を身に付ける。									
使用教材		からだが見えるその他プリント配布						評価方法		実技試験（60％）・4 択試験（20％）・口 頭試問（20％）	
授業内容											
1	徒手検査法の概要、関節可動域検査 頸部					16	整形外科的徒手検査法 1～30				
2	関節可動域検査 体幹・肩甲骨					17	整形外科的徒手検査法 1～30				
3	関節可動域検査 上肢					18	整形外科的徒手検査法 1～30				
4	関節可動域検査 上肢					19	整形外科的徒手検査法 1～30 実技試験・口頭試問				
5	関節可動域検査 下肢					20	整形外科的徒手検査法31～60				
6	関節可動域検査 下肢					21	整形外科的徒手検査法31～60				
7	関節可動域検査 実技試験 関節可動域検査に関与する筋の口頭試問					22	整形外科的徒手検査法31～60				
8	徒手筋力検査 頸部					23	整形外科的徒手検査法31～60 実技試験・口頭試問				
9	徒手筋力検査 体幹					24	整形外科的徒手検査法 総復習				
10	徒手筋力検査 上肢					25	整形外科的徒手検査法 総復習				
11	徒手筋力検査 上肢					26	整形外科的徒手検査法 総復習 実技試験・口頭試問				
12	徒手筋力検査 下肢					27	整形外科的徒手検査・関節可動域検査・徒手筋力検査・反射検査や触診を用いて、疾患の鑑				
13	徒手筋力検査 下肢					28	整形外科的徒手検査・関節可動域検査・徒手筋力検査・反射検査や触診を用いて、疾患の鑑				
14	徒手筋力検査 実技試験 徒手筋力検査に関与する筋の口頭試問					29	整形外科的徒手検査・関節可動域検査・徒手筋力検査・反射検査や触診を用いて、疾患の鑑				
15	反射検査					30	整形外科的徒手検査・関節可動域検査・徒手筋力検査・反射検査や触診を用いて、疾患の鑑				
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	臨床実習-1			担当教員名		専任			
実務経験等		あん摩マッサージ指圧師・鍼灸師として鍼灸整骨院・本学附属臨床施設でのあはき治療の経験をもとに、当該科目の教育を行う。									
年次	2学年	開講期		種別	外部実習	時間数	45時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		臨床実習									
到達目標		施術所における臨床の現場を見学し、できる範囲で患者への接遇や施術者のサポートを行うことで、臨床を体験する。実際に見学したり、体験したりすることを通して、臨床にあたっての自らの課題を見つけ、克服する努力をする。									
使用教材								評価方法		出席、レポート、ディリーノート	
授業内容											
1	合同オリエンテーション						基礎実技評価				
	はりきゅう臨床実習 1						基礎実技評価				
	はりきゅう臨床実習 2						基礎実技評価				
	はりきゅう臨床実習 3						基礎実技評価				
	はりきゅう臨床実習 4						1 年生に徒手施術				
	はりきゅう臨床実習 5						1 年生に徒手施術				
	接遇 1						1 年生に徒手施術				
	接遇 2						教員に徒手施術				
	接遇 3										
	接遇 4										
	接遇 5										
	接遇 6										
	接遇 7										
	外侮臨床実習 報告会										
	外侮臨床実習 報告会										
特記事項											

学科名	東洋療法科昼間課程	科目名	介護技術				担当教員名		齋藤 香織		
実務経験等		特別養護老人ホーム等で介護職員・生活相談員として従事。介護福祉士養成校や社会人を対象とした介護系資格取得の教育に携わる。介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士、保育士、介護支援専門員。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		座学、実習									
到達目標		実習を中心に、高齢者への往診や訪問治療の際に役立つ技術を身に着ける。福祉の知識や介護現場の実際を知ることによってチーム医療の一端を担う自覚を持つ。									
使用教材		目で見てわかる最新介護術						評価方法		出席状況、実技	
授業内容											
1	オリエンテーション・ガイダンス					9	移乗動作④				
2	高齢者体験					10	更衣動作				
3	起居動作①					11	視覚障害者の介護①				
4	起居動作②					12	視覚障害者の介護②				
5	起居動作③					13	起居動作④				
6	移乗動作①					14	移乗動作⑤				
7	移乗動作②					15	まとめ、実技確認				
8	移乗動作③										
特記事項		介護実習室で実技が中心となります。 実習室では、動きやすい服装上下（ジャージのようなもの）、運動靴（サンダル不可）を準備して下さい。									